

平成23年度滋賀県環境審議会（総会）会議概要

- 1 開催日時 平成23年(2011年)6月15日(水) 13時15分～14時30分
- 2 開催場所 滋賀県庁別館2階 大ホール(大津市京町四丁目1-1)
- 3 出席委員 生駒委員、岩田委員、上田委員、占部委員、小鳥委員、笠原委員、上総委員(森田代理人)、亀田委員、河瀬委員、川地委員、北出委員、高坂委員、坂本委員、田崎委員、塚本委員(藤田代理人)、津野委員、外村委員、鳥塚委員、中西委員、中村委員、西田(咲)委員、西田(潤)委員、濱崎委員、原委員(保田代理人)、針谷委員、深町委員、藤井委員、藤澤委員、松井(正)委員、松山委員、谷内委員、山本委員、和田委員(以上33名)
- 4 議事
 - (1) 環境審議会各部会の活動概要について(報告)
 - (2) 第6期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画の策定について(諮問)

<配付資料>

- 資料1 滋賀県環境審議会委員名簿
- 資料2 滋賀県環境審議会条例、環境審議会議事運営要領
- 資料3 環境審議会各部会の活動概要
- 資料4 「第6期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画」の策定概要
- その他 第6期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画」の策定について(諮問文写し)

5 議事概要

(1) 環境審議会各部会の活動概要について(報告)

環境審議会の総会および環境企画部会、温暖化対策部会、水・土壌・大気部会、廃棄物部会、自然環境部会、温泉部会、琵琶湖総合保全部会の活動概要について、各部会担当課(事務局)から報告がありました。【資料3のとおり】

<質疑等>

委員：

環境学習推進計画の改定について答申がされましたけれども、第1期計画の評価・成果・課題を踏まえて策定されたと思いますが、学校教育についてどのように考えられたか、お聞かせ願いたいと思います。

事務局(環境政策課)：

環境学習につきましては、特に小・中学校についてはこれまでから行われており手厚くなっていましたが、その後の高校から大人までは少し薄いという状況であり、小・中学校にもう少しその後の世代も含めてトータルとして環境学習をすべきとの御意見もいただいたところです。

委員：

漠然とした話ではなく、もう少し科学的に学校での環境教育の到達点、成果と課題を聞かせていただきたい。一般的に進んだとか言われても分からないので、どれだけ進んだのか、今後どのようなことに力を入れてやっていくのかということをお願いしたいと思います。

事務局(環境政策課)：

環境学習については、今後、地球温暖化の部分が重要になってくるというような御意見もいただきましたので、低炭素社会、地球温暖化対策も含めて環境学習の取組を進めていきたいと考えています。

委員：

県としては、全県的な小学校や中学校、高校の環境学習の内容や、進行について、数的に把握していないのでしょうか。

事務局(環境政策課)：

小・中学校での環境学習の実績は把握しています。

委員：

数字として捉えているのであれば、また後で状況等を教えていただきたいと思います。

(2) 第6期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画の策定について（諮問）

平成23年6月15日付けで知事から環境審議会会長あてに諮問された「第6期琵琶湖に係る湖沼水質保全計画の策定」について、事務局より説明がありました。【資料4のとおり】

この諮問を受けて、会長から滋賀県環境審議会議事運営要領第5条の規定に基づき、水・土壌・大気部会に付議されました。

○その他意見交換

委員：

先般土曜日に、ちょっと変わった話を聞こうということで、水産試験場の藤岡先生から琵琶湖のお話を伺いまして、非常にためになりました。CODやBODなどの話もありましたし、外来魚を電気ショックで駆除する話もありました。これは話題提供としてお話しさせていただきました。

委員：

赤野井湾の流出水対策について、流出する水が富栄養化になることについて何か原因がつかめているのでしょうか。

事務局(琵琶湖政策課)：

富栄養化するというのは、一つはプランクトンが関与してくる訳ですが、赤野井湾は「湾」がついているとおり、南湖の中でも入り組み奥まったところのございまして、水が滞留しやすい、停滞しやすい水域のございます。そして、比較的水深が浅いということ、後背地の陸域も農地や市街地が形成されていることを勘案しますと、赤野井湾というところがプランクトンを発生させ、それらが琵琶湖の南湖の方に出ていくということで、比較的富栄養化が起りやすい、助長されやすい水域ということです。

このようなことから、重点的に対策をとっていく必要があるということで、赤野井湾を流出水対策地域として第5期計画から進めているところです。第6期についても、さらなる対策を検討して盛り込んでいければと考えています。

委員：

赤野井湾で初期雨水を溜めるなど色々お金をかけて取り組んでいたと思い

ます。自然のことですので、すぐに結果が分かるものではないと思いますが、そういう対策をしてどのような効果があったのかお聞かせていただきたい。

事務局(琵琶湖政策課)：

赤野井湾の流域の色々な団体の方々から毎年、それぞれの取組を報告していただいております。県としましても取組を行っており、河川の管理のところで定期的に水質調査もしております、そういった調査結果からしますと、水質的には改善の兆しがみられております。それから、赤野井湾の水質も若干ではございますが水質改善の兆しが見られております。

そういった結果を毎年、フォローアップ会議というような形で地元の方に還元させていただいております、そして次の年はさらにこんな取組をしていこうというような御議論をいただきまして、スパイラル的に高めていきながら進めていっております。

会長：

少し付け加えさせていただきますと、琵琶湖流域におきましては、おおよその対策はこれまでから実施されてきた訳でございますが、よりきめ細かな、かつ県民一体となった取り組みが必要な時期に来ているということで、色々な県民の方の取組がこの琵琶湖流域で実施されております。

赤野井湾につきましても協議会の話がございましたが、私としては、そこの多くの団体の取組は、ある意味県民の取組の集約、あるいは活動の進むべき事例といった役割を果たしているのではないかという理解をしております。この取組は県の色々なところでも報告されておまして、この計画の中でも位置づけながら、県民の皆さんにこういった事例があるということ、ケーススタディとして理解していただければと思っております。

委員：

昨夜、9時からのNHKのニュースウォッチで、福島県原発の影響が分かりませんが、関東甲信越・東北地域の下水道が、高濃度の放射性物質を含んでおり、今、その持って行き場がないということをおっしゃいました。この中で、大阪府の話も出ていたと思いますが、まず、滋賀県は大丈夫なのかというのが1点と、どうして下水道に含まれるのかということ、専門の先生もたくさんおられるので、見識が分かるのであれば教えていただきたいと思っております。

事務局(下水道課)：

県では下水道でこれまで放射能を測定したことがないので、滋賀県がどのような状況になっているかというデータはございませんし、今のところ測定する予定もありません。近隣では、大阪で測定されていることが報道されておりましたが、大阪に近い状況にあるのではないかと推定できます。

また、どこから発生するかということですが、降雨に伴って地表面に溜まったものが下水とともに集積し、下水の処理過程で濃縮されるということが報道されておりましたが、下水道のシステムも汚水と雨水を一緒に集める合流式と、雨水と汚水を分離する分流式というのがございまして、大阪は大部分が合流式であり、影響がしやすいのかと思いますが、滋賀県の場合は、大津の一部を除いて分流式ですので、推定ですが大阪と比べて影響が少ないのではないかと考えております。